

第 182 回 BA エグゼクティブサロン概要 (9/14)

テーマ：月面開発ビジネス最前線

～アルテミス計画、そして人類の月面滞在へ～

講演者：寺園 淳也（てらその じゅんや）氏

合同会社ムーン・アンド・プラネッツ代表社員

卓話概要：

月がいま、ビジネスの最前線に来ようとしています。アメリカが主導し、日本も大きな役割を果たす有人月探査「アルテミス計画」、そしてその先を見据え、日本企業が月面開発へと動き出しています。いまなぜ、月なのか。そして月面開発ビジネスは今どのように展開し、これからどう進んでいくのか。30年にわたって日本の月探査に関わり続け、いまでも宇宙開発と宇宙科学の最前線で広報を行っている講演者が、月面開発の今とこれからをわかりやすく語りま

略歴：

- ・ 1967 年東京都生まれ。名古屋大学理学部卒。東京大学大学院理学系研究科(博士課程)中退。宇宙航空研究開発機構、会津大学などを経て、現在合同会社ムーン・アンド・プラネッツ代表社員。NPO 法人日本火星協会理事。一般社団法人宙ソールリズム推進協議会理事、一般社団法人 ABLab 理事。
- ・ 専門は惑星科学、情報科学。惑星科学は特に月や火星など、固体の表面を持つ天体の地質学や地震学。情報科学は、データベース科学、ウェブシステム、ネットワーク工学、セキュリティなど。
- ・ 大学院時代は宇宙科学研究所で、月の地震の研究を行う。宇宙開発事業団では、月探査計画「セレーネ計画」(かぐや)の立ち上げに従事。
- ・ 宇宙航空研究開発機構(JAXA)では広報部に所属し、JAXA ウェブサイトの管理・運営を行う傍ら、講演などで宇宙、特に月・惑星探査についての最新情報を幅広く伝えてきた。特に、2005 年 11 月の、小惑星探査機「はやぶさ」の着陸のときにはブログを通して世界中に情報を発信した。
- ・ 会津大学では、大学運営の傍ら、「かぐや」により得られるデータを研究者が使いやすくするための解析環境作りを担当しているほか、これまで行ってきた月・惑星探査に関する研究も行った。情報通信研究機構では地球温暖化ガス観測衛星のデータ処理システム開発に従事した。USP 研究所では上級 UNIX エバンジェリストとして、USP の技術及び UNIX 技術全般の普及啓発活動や若者への教育活動を実施した。
- ・ 現在は宇宙開発及び月・惑星探査の普及・啓発活動をメインに、自らの合同会社を基盤に活動を行っている。1998 年より、月・惑星の知識や探査計画を紹介するサイト「月探査情報ステーション」(<https://moonstation.jp>)の編集長を務めている。
- ・ 著書は『宇宙開発の不都合な真実』(彩図社、2022 年)、『2025 年、人類が再び月に降り立つ日』(祥伝社、2022 年)など。

